



志木三小だより

学校運営協議会スローガン「ともに愛そう わがまち わが学校」

志木市立志木第三小学校

令和4年10月31日

志木市柏町3丁目2番1号

TEL 048-471-1062

インクカートリッジの話～自己実現に向けて～

校長 関根 久美子

以前勤めた学校で、PTAの活動として家庭で使用済みのインクカートリッジを回収してベルマークの点数にするという取組を行っていました。回収箱は児童がよく通る廊下の決まった場所に置いてありました。床に直接置いてあるのではなく、高さ90cmくらいのロッカーの上に置かれていました。

児童は家庭で集めた使用済みのインクカートリッジを袋に入れて学校に持ってきます。1時間目の授業が始まる前や、休み時間にこの「回収箱」にインクカートリッジを入れます。PTAのベルマークの担当の方が、授業参観の時など、定期的に回収して、ベルマークの点数に変える手続きをしていました。

ある日、担任の先生が連絡帳に書かれた保護者の方の「ご意見」を見せてくれました。そこには次のように書かれていました。

今日、息子にインクカートリッジを持たせたところ、そのまま持って帰ってきました。どうしたのかと聞いたら、「回収箱が高いところにあって入れられなかったから、持って帰ってきた。」と言いました。低学年の子にも届くところに置くべきではないですか。置き場所を考えてください。

私は、すぐに「回収箱」を見に行きました。ロッカーの上に置かれているので「回収箱」の上の端まではさらに30cmほどありました。確かに低学年の子供は届かなかったかもしれません。違う置き場所はないかとあたりを見回し、考えました。

子供が持つことが想定されていたのですから、この保護者のご指摘のように「回収箱」の置き場所に配慮が足りなかったのかもしれません。

けれども、この子はどうして「とどかないから入れて。」と通りかかったであろう上級生に言えなかったのでしょうか。せっかく持ってきたインクカートリッジなのに「回収箱」が高いところにあって入れられなかったことを、どうして担任の先生に一言、言わなかったのでしょうか。どうして、誰にも、何も言わずにせっかく持ってきたインクカートリッジをそのまま持って帰ったのでしょうか。

私は、この保護者が「間違っている」と言っているのではありません。学校が「正しい」と言っているのでもないのです。

子供が何かに困ったとき、または困ることが予想されているとき、困らないように手を差し出すことも必要です。けれども、子供自身が困った状況をきちんと話すことができる、助けを求められる子供にすること、伝える力を身に付けさせることは、その時の状況をただ改善し、助けてあげることより、もっと難しく、必要なことです。いつも誰かが、「何も言わなくても助けてくれる」「困った状況を察して手を貸してくれる」「あらかじめ困った状況を想定して回避できるようにしてくれる」とは限らないからです。

子供たちは、これからの人生、予想もしなかった「ピンチ」に遭遇することがあります。そんな時に、自分の力で「解決策を探し」「周りの人を動かし」「困難な状況を少しでも良くする」ことができる力が、人生を豊かにするはずで